

～認知症「神戸モデル」～
事故救済制度加入者に関するアンケート調査結果

1 調査の目的

神戸市では、認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくりを推進するため、「神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例」を平成 30 年 4 月に施行し、認知症の人やその家族をまち全体で支えるための中心となる取組みである認知症「神戸モデル」を推進している。

認知症「神戸モデル」は、65 歳以上の市民を対象とする無料の診断助成制度と、認知症と診断された人の事故に対して給付される見舞金・賠償責任保険等からなる事故救済制度の 2 つの制度を柱としており、平成 31 年 4 月から本格的に実施している。

このたび、事故救済制度に加入した方を対象として、制度を知ったきっかけや加入した理由、また、加入後の気持ちや行動の変化等を把握し、今後の制度運営の参考とするためのアンケート調査を実施した。

2 調査対象等

(1) 調査対象

事故救済制度の加入者（令和元年 11 月末時点：3,479 名）から抽出した 1,000 名

※ 層化抽出法により、性別・年代・居住区別に偏りがない形で抽出

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(3) 調査期間

令和元年 12 月 18 日（水）～令和 2 年 1 月 17 日（金）

(4) 回収結果

有効回収数 612（回収率 61.2%）

3 調査の内容

(1) 事故救済制度に登録した方法、診断助成制度を利用した理由

(2) 事故救済制度への申込を決めた方、制度を知ったきっかけ

(3) 事故救済制度に申し込んだ理由

(4) 事故救済制度に加入した後の気持ちや行動の変化

(5) GPS 安心かけつけサービスへの申込状況

(6) 今後、日常生活が暮らしやすくなるための支援やサービス

4 調査結果

(1) 基本情報

① 回答者の性別

	項目	N	%
1	男性	242	39.5
2	女性	369	60.3
3	不明	1	0.2

② 回答者の年齢

	項目	N	%
1	65歳未満	7	1.1
2	65～74歳	59	9.6
3	75歳以上	544	88.9

③ 回答者の主な生活場所

	項目	N	%
1	自宅(1人暮らし)	154	25.2
2	自宅(夫婦2人)	210	34.3
3	自宅(親子・兄弟など2人)	54	8.8
4	自宅(家族3人以上)	111	18.1
5	グループホーム	16	2.6
6	特別養護老人ホーム	11	1.8
7	老人保健施設	15	2.5
8	有料老人ホーム	11	1.8
9	サービス付き 高齢者向け住宅	17	2.8
10	その他	10	1.6
11	未回答	3	0.5

(2) 事故救済制度に登録した方法，診断助成制度を利用した理由

事故救済制度に登録した方法は「神戸市の診断助成制度を利用」が 42.0%、「医師に診断書の記載を依頼」が 52.1%であった。

「神戸市の診断助成制度を利用」した理由は「事故救済制度に登録された方の忘れ物やもの忘れ、置き忘れが増えて不安に思ったから」が 71.6%と最も多く、次いで「事故救済制度に登録された方の仕事や家事が以前のようにできなくなり不安に思ったから」、「家族や主治医から受診をすすめられたから」（いずれも約 3 割）であった。

① 事故救済制度に登録した方法

項目	N	%
1 神戸市の診断助成制度を利用して、認知機能精密検査で診断を受けた後、事故救済制度の申込書に記入した	257	42.0
2 医師に診断書への記載を依頼し、その診断書を提出して登録した	319	52.1
3 わからない	31	5.1
4 未回答	5	0.8

② 診断助成制度を利用した理由（上記で「1」と回答された方のみ）

項目	N	%
1 事故救済制度に登録された方の忘れ物やもの忘れ、置き忘れが増えて不安に思ったから	184	71.6
2 事故救済制度に登録された方の仕事や家事が以前のようにできなくなり不安に思ったから	79	30.7
3 家族や主治医から受診をすすめられたから	80	31.1
4 特に理由はないが、自分自身の認知機能を確認しておきたいと思ったから	12	4.7
5 その他	19	7.4

(その他)

- ・遠距離介護となるため、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）に相談していた時に教えてもらったから。
- ・以前外出していた際に骨折したから。
- ・夫婦で外出時に場所が分からなくなることや、待ち合わせ場所から離れてしまうことがあったから。
- ・足を骨折して歩行器で歩いているので、今まで以上に事故に遭う可能性が高いと思ったから。
- ・今後の病状の進行に備えて利用した。
- ・妄想，不安症状が強くなるのが不安だから。

など

(3) 事故救済制度への申込を決めた方，制度を知ったきっかけ

事故救済制度への申し込みを決めた方は、ご家族が 88.2%（「同居のご家族」（46.7%）、「別居のご家族」（41.5%））

制度を知ったきっかけは「市の PR」（48.2%）が最も多く、次いで「かかりつけ医からの情報提供」（30.1%）、「ケアマネジャーからの情報提供」（26.8%）であった。

① 事故救済制度への申し込みを主に決めた方

	項目	N	%
1	事故救済制度に登録された方ご本人	14	2.3
2	事故救済制度に登録された方と同居されているご家族	286	46.7
3	事故救済制度に登録された方と別居されているご家族	254	41.5
4	その他	20	3.3
5	未回答	38	6.2

② 事故救済制度を知ったきっかけ

	項目	N	%
1	市のPR(広報紙, ポスター, 郵送物など)を見て	295	48.2
2	事故救済制度に登録された方のご家族からの情報提供	18	2.9
3	かかりつけ医からの情報提供	184	30.1
4	市や医師会などが開催する市民講座等	8	1.3
5	ケアマネジャーからの情報提供	164	26.8
6	あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)からの情報提供	75	12.3
7	薬局や介護サービス提供事業者等からの情報提供	9	1.5
8	ご近所の方・知人などからの情報提供	23	3.8
9	その他	25	4.1

(その他)

- ・新聞やテレビの報道を見たから。
- ・民生委員
- ・診断後に病院から貰った書類に書いてあったから。
- ・家族からこの制度のことを教えてもらったから。
- ・通院している病院にパンフレットや申込書が置かれていたから。
- ・認知機能精密検査を受けた病院に勧められたから。
- ・納税通知書に神戸モデルにより 400 円増えたことが書かれていたから。

など

(4) 事故救済制度に申し込んだ理由

事故救済制度に申し込んだ理由は、「事故や他人の物を壊してしまう不安の軽減」(54.9%)が最も多く、次いで「安心して外出したいと考えた」(33.3%)、「自己負担がないから」(31.7%)であった。なお、「明確な理由はない。」の回答も28.1%あった。

・事故救済制度に申し込んだ理由

項目		N	%
1	過去に物を壊してしまったり、他人とトラブルにあった経験があるから	24	3.9
2	事故にあったり、他人の物を壊してしまうおそれがあるので、保険に入ることによって不安を軽減できると考えたから	336	54.9
3	安心して外出したいと考えたから	204	33.3
4	明確な理由はないが、安心のために何かしらの保険に入りたいと考えたから	172	28.1
5	自己負担がないから	194	31.7
6	その他	31	5.1

(その他)

- ・他県で起きた列車事故のニュースが心に残っていたから。
- ・家族が仕事をしているので、もし何かあればと思ったから。
- ・ここ数年で自分の状態がどんどん変わり、今後どうなるか予測できないから。
- ・認知症になったので、とりあえず登録した。
- ・免許返納で自動車保険を解約したため、物損に対する保険がなくなったから。
- ・今の時点では大きな問題はないが、いつ何があるか分からないから。
- ・何かあってからでは困るので、少しでも安心して生活したいから。 など

(5) 事故救済制度に加入した後の気持ちや行動の変化

制度登録後の気持ちの変化は「不安が和らいで、安心して外出できるようになった」(41.8%) が最も多かった。なお、「特に変わったところはない」(41.5%) との回答も同程度であった。

制度登録後の行動の変化は「特に変わったところはない」(77.5%) が最も多かった。

① 事故救済制度に登録された後の気持ちの変化

項目	N	%
1 事故にあうことや物を損傷することへの不安が和らいで、安心して外出できるようになった	256	41.8
2 外出しても道がわからなくなって困るといった不安が和らいだ	102	16.7
3 その他	46	7.5
4 特に登録前と変わったところはない	254	41.5

(その他)

- ・他人に迷惑を掛けないか心配だったが、保険に入って安心した。
- ・今のところ実感はないが、認知症が進行した時に安心を感じられると思う。
- ・何があるか分からないので、このような制度を設けて頂いたことは有難い。
- ・高齢のために保険に入れないため、登録できて安心した。
- ・保険に入ることで、他人に損害を与えてしまうという不安が少しやわらいだ。
- ・もしもの時に第三者に入ってもらえるので、家族が不安にならずに済む。
- ・アルツハイマーと診断されたばかりで、これから先の症状や行動が分からず心配だったが、少し不安が和らいだ。
- ・安心して妻と外出できるようになった。
- ・これからの生活に少し安心感が出た。

など

② 事故救済制度に登録された後の行動の変化

項目	N	%
1 登録者の方が、一人で外出する機会が増えた	15	2.5
2 登録者の方が、ご家族や友人と一緒に外出する機会が増えた	51	8.3
3 以前よりも外出できる範囲が広がった	23	3.8
4 その他	34	5.6
5 特に登録前と変わったところはない	474	77.5

(その他)

- ・外出時に何かが起こったとしても、安心できるようになった。
- ・近くに踏切があるので安心している。
- ・免許を返納し、子供と同居している。

など

(6) GPS 安心かけつけサービスへの申込状況

GPS 安心かけつけサービスへの申し込み状況は、回答者全体のうち 8.3%であった。

申し込んだ理由は「行方不明になったり道に迷った際に、命にかかわるような事件や事故にあわないようにするため」(64.7%) が最も多かった。

① GPS 安心かけつけサービスの申し込み状況

項目		N	%
1	申し込んでいる	51	8.3
2	申し込んでいない	512	83.7
3	わからない	31	5.1
4	未回答	18	2.9

② GPS 安心かけつけサービスに申し込んだ理由（上記で「1」と回答された方のみ）

項目		N	%
1	行方不明になったり道に迷った際に、家族が近くにいないと困るから	23	45.1
2	行方不明になったり道に迷った際に、警察や近隣の方に迷惑をかけたくないから	23	45.1
3	行方不明になったり道に迷った際に、命にかかわるような事件や事故にあわないようにするため	33	64.7
4	行方不明になったり道に迷う心配は少ないが、安心が得られるため	12	23.5
5	契約事務手数料やかけつけサービス(年間6回まで)の費用を市が負担してくれるから	22	43.1
6	その他	4	7.8

(その他)

- ・GPS で家族が位置を把握できるから。
- ・バスや電車に乗るため。
- ・このサービスを申し込む前に行方不明になり警察に保護されたことがあるから。

(7) 今後、日常生活が暮らしやすくなるための支援やサービス

「今後、事故救済制度に登録された方の日々の生活が、より暮らしやすくなるために必要な支援やサービス」として挙げられたのは、「生活や医療に関する相談窓口」(42.2%)、「認知機能や生活の改善につながるような活動機会の紹介」(35.5%)、「登録者の方ご本人の住居での見守りや外出の際の付き添い等の支援」(38.7%)が多かった。

また、約4分の1の方から「初期段階や軽度認知障害(MCI)の方でも利用できるサービスの紹介」(26.3%)が必要と回答があった。

・事故救済制度に登録された方の日々の生活が、より暮らしやすくなるために必要な支援やサービス

	項目	N	%
1	生活や医療に関する相談窓口	258	42.2
2	成年後見等の権利擁護や財産管理等に関する相談窓口	127	20.8
3	初期段階や軽度認知障害(MCI)の方でも利用できるサービスの紹介	161	26.3
4	認知機能や生活の改善につながるような活動機会の紹介	217	35.5
5	登録者の方ご本人や家族、地域で支援する方が一緒に交流できる場の充実	111	18.1
6	登録者の方ご本人同士が交流できる場の充実	83	13.6
7	登録者の方ご本人の就労に関する支援	14	2.3
8	登録者の方ご本人の住居での見守りや外出の際の付き添い等の支援	237	38.7
9	その他	43	7.0
10	特にない	32	5.2

(その他)

- ・重度の認知症になった時に利用できるサービスの紹介等
- ・認知症になっても簡単な手作業はできるので、そのような社会参加ができる場があれば満足感が得られると思う。(手芸, お料理, 清掃等)
- ・認知症の方との接し方等の講演や勉強会
- ・GPS 端末の小型化
- ・家族が相談できる窓口
- ・同居家族へのケア

など